

# 東京都下の蔬菜の栽培と品種の沿革

萩原 十

## On the Development of the Varieties and the Cultivation of Vegetables in Tokyo-to

Hagiwara, T

明治33年(1900年)よりの東京都農業試験場の復命書綴に、蔬菜の栽培と品種の沿革に就いて調査したものがあつたので、殆んど大部分この綴により、其の他昭和4年(1929)東京府が出版した東京府の産業(農業其の一園芸)及び、東京府農林課出版の東京府下に於ける園芸作物栽培の実際(其の一)1936、其の二1937等と、筆者が元当場の技師鈴木孝太に聞いた事及筆者自身の調査等に依つて取まとめたので、不備の点は多いと思うが、一応参考となると考えたので、茲に報告する次第である。尙年代は西暦紀元を入れた方が便利と考えたので( )内に西紀を入れた。

### I 果 菜 類

#### 1. 茄 子

江東区の砂町の松本久四郎、市原兵衛の所蔵の古記によれば、徳川幕府の初期(1900年)頃より栽培されていたと記しているが、それ以前の栽培は不明である。

#### 砂 村 丸

前記松本久四郎の6代前の久四郎は寛政年間(1790年頃)大変苦心して早作り方法を発明し、砂村丸茄子を栽培した。この茄子はその後江戸川区、葛飾区に栽培され、当場に於ても最近までこの系統を促成用として栽培していたが、戦時中なくしてしまつた。農家にも現在殆んど見られなくなつた。

葛細千成前期同様砂町に於て古くから栽培されていた様であるが、出来上つた年代は詳かでない。この品種は明治の中期から大正の初期には早生千成と云つていた。

#### 山 茄

中野区堀江家所蔵によれば、徳川幕府の初期(1600年頃)より栽培されていた。安政年間(1750年頃)堀江卯右衛門が新宿区の四谷に徳川将軍家の命により茄子の耕作を行つた。その後(1850年頃)周囲に人家が建つたので、その栽培を中野に移した。その頃よりこの茄子を山茄と呼んだ。

#### 真 黒

埼玉県草加町より明治25年に(1892年)葛飾区に入つ

たのがはじめである。草加町には砂村丸、葛細千成が明治初期に入りこれ等より、自然淘汰が行われ出来たと云う説と、東京より目黒と云う品種が入りこれより自然淘汰し明治20年頃(1887年頃)出来上つたとも云われている。後者の目黒の方が真黒に近い品種であり、この方が起原の様に考えるが夫れかは判然しない。

#### 萩中長

昭和17年(1942年)山口県立農事試験場より萩と云う名称で東京都農業試験場に種子の分譲を受けた内に、中長の個体があり、これを採種試作した所固定していたので昭和18年(1943年)萩中長と名づけた。

#### 2. ト マ ト

明治初期(1870年頃)に栽培された。明治37、8年頃(1905年頃)より加工場が出来たのでこの頃より加工用として栽培された。

#### 3. 蕃 椒

古くから栽培されていたが、徳川時代新宿内藤家の下屋敷に於て採種し、内藤蕃椒の名があつた。

#### 4. 胡 瓜

茄子と同様江東区の砂町の松本久四郎の古記には徳川幕府の初期(1600年頃)より栽培されていたと記せられている。

#### 馬込半白

寛政年間(1800年頃)より江東区で作られていた砂村青節成を、品川区大井町に明治初年(1870年頃)に導入し、この中より果色の淡緑のものを発見し、これに改良を加えたものが大井節成となつた。明治33年頃(1890年頃)より大田区馬込町に於て更に改良を加え現在の様な馬込半白となつたと云われている。

#### 豊 島

荒川区尾久町にて明治20年頃(1887年頃)埼玉県谷塚地方より、苗を取寄せ栽培していたものを改良したのが豊島胡瓜である。

#### 高井戸

杉並区高井戸地方に於て明治32~33年頃(1900年頃)より豊島と馬込半白とを栽培している内、自然交雑した

ものより選抜をつづけた結果大正初期（1912年頃）より固定したものが作出され高井戸胡瓜となつた。

## 5. 南 瓜

古くから栽培されていた様であるが、栽培の沿革は不明である。

### 居木橋

品川区大崎町（大崎町の一家の居木橋）の名主松原庄左衛門が徳川家光の頃（1610年頃）東海寺建立の時に井戸端にあつたものを持ち帰つて栽培したのが、始めであると云いつたえられている。

### 内 藤

いつ頃からか不明であるが新宿の内藤邸（今の新宿御苑）に栽培されたのが始めとされている。

### 早生小南瓜

明治20年頃（1887年頃）北多摩郡国分寺町の中藤新田の池田一之丞が、内藤南瓜をもらつて栽培した所、その中に早生のものがあつたので、これを選抜固定したのがこの品種である。

## 6. 西 瓜

1850年頃より黄西瓜が栽培されていた様である。

### アイスクリーム

栽培の始めは明治9年（1879年）黒田侯爵邸より目黒区碑文谷の安藤兼五郎が種子を買つて来て栽培したのがはじめである。馬込町が先と云う人もあるが、馬込は明治12年（1900年）に碑文谷より種子をもらい作つたのが始めであると云われているので、碑文谷の方が先と考える。

## 7. 白 瓜

起源は不詳であるが、北区が栽培地としては古い様である。

### 大白瓜

明治以前より栽培されていたが、起源は不詳で北区王子町が古い栽培地である。

### 切 縞

古い品種であり、江東区砂町では明治5年頃（1872年）には既にこの品種が栽培されている。

### 余蔘白瓜

江戸川区で作られていた丸葉晩生を明治30年（1897年）より余蔘栽培しこれを次第に余蔘に適する様に改良し、現在の様な余蔘白瓜となつた。

## 8. 甜 瓜

起源はいつ頃より栽培されていたかは不明であるが、1700年頃には作られていた。

### 金甜瓜

荏原区に於ては、1800年頃には既に栽培されていた。

## 成子甜瓜

新宿区淀橋町に於て徳川時代（1700年頃）に成子と云う部落に栽培されていたので、この名称が出た。

### 銀甜瓜

江戸川区に於て、1750年頃より栽培されていた。

## 9. 冬 瓜

起源は古い様であるが、不明である。江戸川区に古く栽培されていたが、その後品川区方面に栽培された。文久年間（1810年頃）までは長形型であつたが、その後丸形型をも栽培された。

## 10. 菜 豆

江戸川区に於て明治10年頃（1880年頃）が栽培の始めである。

### 群 房

江戸川区鹿骨町葛飾区奥江町附近に於て明治30年（1900年頃）より栽培された。

### マスターピース

江戸川区方面で大正の末期（1920年頃）より作られはじめた。

## 11. 枝 豆

足立区西新井町に於て明治の初期（1877年）より栽培が始められた。この頃は枝豆と云わず高野豆と呼んだ。

## 12. 鶴 豆

葛飾区に於ては自家用としては古くから栽培していた様であるが、市場向としては枝豆と同時期（1877年頃）から栽培が始められた。

## 13. 落 花 生

記録には明治12年頃（1880年頃）より杉並区に於て栽培がされたのが、始めとされている。

## II 根 菜 類

### 1. 甘 藷

青木文蔵（昆陽と号し甘藷先生と云われた）が享保20年（1736年）幕府の命を受け、種藷を薩摩より取寄せ小石川養生所へ170坪（181個）栽培したのが、始めである。

### 2. 馬 鈴 薯

明治初年（1870年）頃に横浜方面から入つたものか、勸農局から種子が入つたかは不明であるが、その頃から栽培が始められた。

### アーリローズ

明治20年頃（1887年）に輸入され栽培された。

### 3. 里 芋

起源古く不明である。古い品種としては八ツ頭、早生土垂、団子、縞芋等がある。

## 豊 後

明治18年(1885年)埼玉県より板橋区志村町に入り栽培されたのが始めである。

## 5. 大 根

栽培古く不明である。

### 練馬大根

徳川五代將軍綱吉公が(1700年頃)練馬区に尾張より種子を取寄せ栽培したのが始めとされている。元当場の鈴木技師の談によれば、その頃大根は既に栽培されていたので、尾張から入つたものは別ではないかと云つていた。

### 二年子大根

荒川区南千住に於て明応年間(1495年頃)高田右衛門が試作したのが始めて、徳川時代は汐入大根と呼ばれていた。

### 美濃早生大根

板橋区志村町に於ては、徳川時代(1800年頃)美濃吉と云う人が栽培を始め早生であつたので美濃早生と呼ぶ様になつたと云われている。

### つまり

練馬大根より出たものとされている。

## 綿 種

練馬大根の一系統で明治20年頃(1880年頃)中野区の石森伝蔵が改良し、干大根とした時、乾燥すると真綿の如く外皮が真綿状となり光沢があるので綿種(種は現在の系統又は品種の意味)と云つた。

## 亀戸大根

江東区亀戸地方で古くから栽培されていたもので、起源は不明である。明治15年頃(1880年頃)はおかめ大根、おたふく大根と云つていたのが大正の初期(1910年頃)より亀戸大根と呼ばれる様になつた。

## 細根大根

起源は不詳であるが、葛飾区下千葉地方には天正8年(1580年頃)江戸川区平井町から入つたと云われているので平井町に於いてはそれで以前に栽培していたものと考えられる。当時は「あらいがみ」と呼ばれていた。

## 6. 蕪 菁

古くから作られていたが起源は不詳である。

### 小蕪菁

葛飾区の古老の言によれば嘉永年間(1850年頃)に既に下千葉に於ては味噌汁に入れ食用にしていたと云う。その頃朝鮮から種子が入り在来のものと雑種して、これより現在の様な春の抽苔の晩い金町小蕪菁が、明治後期(1900年頃)に出来たと云われている。

## 7. 人 参

栽培の起源は不詳である。

### 滝の川人参

享保年間(1716年頃)徳川吉宗が甘藷其の他の種子を全国より、集めて江戸近在に試作してより、滝の川地方が人参に適したのでこの地方で多く作られる様になり、滝の川人参の名が出たと云われている。

### 三寸人参

明治20年頃(1887年頃)江東区大島町鈴木浦吉、浦野与兵次等が横浜より種子を入れ栽培したが売れなかつた。その後栽培を続けている内に売れる様になつた。その後江東区砂町が栽培が盛んとなり砂村三寸人参と呼ばれる様になつた。これが馬込町にも入り馬込三寸人参の一方の親品種と云われている。

## 8. 牛 蒡

栽培起源古く不明である。

### 滝の川

元祿時代(1690年頃)より滝の川には牛蒡が栽培されていてこの名が出たと云う。

### 中の宮

練馬区(旧上練馬村中の宮)に於て滝の川より明治中期に早生の系統を選抜し、中の宮牛蒡となつた。その後同地方の鹿島安太郎が改良をつゞけ現在の様な中の宮牛蒡となつた。

### 砂 川

元祿時代(1690年頃)北多摩郡砂川開墾の当時、野生の牛蒡を掘りとり食用に供し以後栽培したのがこの品種と云われているが、徳川末期(1850年頃)より砂川牛蒡と呼ばれる様になつた。

## 9. 薑

起源不詳であるが、明治33年の調査で60年位前(1850年)には台東区日暮里に於て、既に栽培していた。その頃は谷川薑と呼ばれていた。

## 10. う ど

起源不詳であるが、武蔵野市吉祥寺に於て明治以前より栽培されていたが、その頃所沢うどと呼んでいたのが明治以前に埼玉県所沢より入つたものと考えられる。寒うどは明治の初期に埼玉県安行方面より入つたと云われている。

## 11. 蓮 根

白花は葛飾区に千葉県(上総)より入つたと云われている。既に安政年間には墨田区隅田地方、江東区大島地方に栽培されていたので、それ以前に入つたものと考えられる。

赤花は北区上中里地方に埼玉県岩槻在より明治初期に(1870年頃)入つたと云われている。

## 12. くわい

起源は不明であるが、足立区保木間に於ては1600年頃より栽培されていたと云われている。

## III 葉菜類

### 1. 漬菜

#### イ 結球白菜

足立区に於て明治30年(1897年)頃に結球白菜の栽培をはじめている。

白頭蓮白菜は目黒区(旧目黒町字五本木)の小川練次郎が日露戦争の頃(1905年頃)中国より種子を持って来て栽培し、附近の市場に出荷したのが始めである。その他の結球白菜は都農業試験場に於て明治後期に試作普及したのが始めである。

#### ロ 唐人菜

明治9年(1887年)に中国より葛飾区の奥戸町に入つたのが始めてその頃は青菜であつた。

#### ハ 曲金菜

明治20年頃(1887年)より作出された様である。

#### ニ 山東菜

足立区の牛込金三が、明治27年(1894年)に山東菜を試作したのが始めである。

#### ホ 改良山東菜

大正10年(1921年)頃足立区の西新井町の瀬田吉三郎が芝罘白菜と山東菜の雑種を作り4年で固定しこれを改良山東菜と云つた。これが西新井山東の新品種である。

#### ヘ 三河島菜

1600年頃より栽培されていた様であるが、よくわからない。明治のはじめ頃は莖葉が稍濃緑であつたが、明治20年頃には淡緑色となり白莖三河島と呼ぶ様になつた。

#### ト 京菜

江東区亀戸が最も古い栽培地で既に1800年頃にはここより葛飾方面には種子が出ていた。

### 2. 小松菜

起源は不詳であるが、徳川時代に江戸川区小松川、松江地方に徳川の将軍が鷹狩に来て献上したのが小松菜のおこりである。

### 3. 甘藍

葛飾区の奥戸町の中野藤助が芝区三田の育種場より明治19年(1886年)に種子を得て栽培したのが始めである。同氏は品種改良して早生丸を作出した。はじめの品種はアーリーサンマーだろつと云われている。

### 4. 葱

非常に古く起源は不詳である。

明治初年には砂村種、西山種、地種の三品種があつた。この内砂村種は雉の尾と云つて、分蘖多く淡緑色でこれを赤柄と云う様になつた。又地種はハツ房と云つて分蘖が多く軟白部が少なかつた。それでこの品種は次第に少なくなつた。西山種は埼玉県草加町方面より入り、太くて濃緑で生育が旺盛であつた。これを後に黒種とよんだ。

その後雉の尾(赤柄)と西山種との自然交雑より次第に色の赤柄より濃いものを選び、この系統を牛の角と呼んだ。この内より次第に軟白部の長い太い稍色の濃い系統が出来、一般に砂村一本太葱と云うのはこの系統である。其の後明治35年頃に別に埼玉県より黒柄が入つて来て赤柄と交雑し、この内より収量の多い軟白部のしまつた色の稍濃い系統が葛飾区に出来た。これを大正の始めに合柄と呼ぶ様になつた。砂村一本太葱と、合柄とはよく似ているのはこの様な経過によるものと考えられる。又この埼玉県から入つた黒柄は葉が濃緑の所から大正2年頃には藍黒(アイグロ)種と呼んでいた。

### 5. 玉葱

大田区矢口町では明治10年頃より栽培された。明治の中期紫玉葱として出荷し収益を上げたが、その後栽培がおとろえた。

この当時の品種はエローグンバースと云われている。

### 7. みつば

起源は不詳であるが、葛飾区水元附近には徳川時代には作られていた。

なお、軟白みつばの沿革は次の様である。南多摩郡忠生村小山田地方が都心より遠く、その上傾斜地で耕地が狭い所から、何か適當の副業がないかと考えていた所、神奈川県平塚附近のみつばの軟化栽培の利益の多いのを知り、調査の上、大正2年小山田の田中庫三が栽培したのが始めである。その後当場の元牛村技手が熱心に指導したので小山田みつばの名声を博した。尙同氏は大正14年より現在の様な横穴式軟化窖による軟白をはじめた。